

カンボジア 工場労働者のための子宮頸がんを入口とした 女性のヘルスケア向上プロジェクト

Newsletter from SCGO-JSOG Project on Women's Health and Cervical Cancer

No. 30 May 2018

プロジェクト対象 2 病院で子宮頸がん二次検診を実施

4月29日にプノンペン経済特区(PPSEZ)での子宮頸がん一次検診を受診した97名のうち、HPV陽性は11名でした。そのうちの6名が、今回2018年5月29日～31日の日程で国立母子保健センターとクメールソビエト病院を受診し、二次検診を実施しました。

検診には日本産科婦人科学会から派遣された京都府立医科大学の澤田守男医師と杏林大学の西ヶ谷順子医師が立会い、実地指導が行われました。

昨年6月の工場検診では、HPV陽性4名のうち、残念ながら二次検診受診者はゼロでした。その経験などから学び、今回は結果の確実な返却、対象者電話連絡先の確認、工場管理者への説明の徹底などを行い、陽性11名のうち6名受診（二次検診受診率55%）という結果に結びついたと考えられます。



カンボジア人医師が検診をする様子を見守り、指導します。



クメールソビエト病院医師らと。
(写真左から2番目:澤田医師)

杏林大学医学部産科婦人科学教室
西ヶ谷 順子

今回の派遣は2018年5月28日より5月31日までの日程で行われました。今回は京都府立医大の澤田守男先生とご一緒させていただきました。私は前回2017年9月に、澤田先生も2018年3月に参加させていただいており、今回が2回目の派遣となりました。また、澤田先生とは日産婦学会の幹事業務でご一緒させていただいており、派遣に際しての申し送りなどもスムーズに行うことができました。2回目ということもあり、カンボジアへの渡航の準備については慣れたもの(!?)でしたが、今回はこれまでの活動のまとめの時期ということも伺っておりましたので、別のプレッシャーを感じつつ、カンボジア入りしました。9月の派遣とは異なり、今回は国際医療センター(NGGM)の先生方や、病理の先生方ともご一緒させていただき、大所帯での派遣となりました。今回は、①子宮頸がん工場検診のHPVテスト陽性例に対する二次精検、②第2回CPC参加、③プロジェクト・プロトコルの見直しが目玉のテーマでした。

2018年5月29日より早速それぞれ二手にわかれての活動となりました。

澤田先生にはKhmer Soviet HospでLumpiny先生のCPC準備の指導をしていただき、私は国立母子保健センター(NMCHC)で子宮頸がん検診二次精検の実地指導を行いました。9月に訪問したときにはまだコルポ診そのものに自信がないような感じでしたが、今回は“これはこういう所見だと思う”と自分から提示することができるようになっておりました。その後Preah Kossamak Hospitalで合流のうえSophean先生のCPC準備を指導しました。

午後は NMCHCで開催されたCambodian Society of Gynecology and Obstetrics – Board member & implementer team meetingに参加して、Protocol for prevention and management of cervical pre-cancer and cancerの改訂に向けた検討会に参加しました。このプロトコルの改訂については日本にいる幹事とメールで内容に関して議論しました。

3日目(5月30日)はNMCHCで子宮頸がん検診二次精検の実地指導。LEEPはある程度スムーズに実施出来ており、著しいスキル向上を実感した次第です。

午後にはNMCHCで病理医・産婦人科医合同のCPCIに参加。日本から病理医2名(沢辺教授、加藤名誉教授)も参加され、熱い議論が繰り広げられました。この日はJICA東京の方々との会議や食事を一緒にする機会がありましたが、本事業を高く評価している話を伺うことが出来ました。

4日目(5月31日)、最終日はそれぞれNMCHCとKhmer Soviet Hospに別れて二次検診者の対応を行いました。ぜひ手術室を見学したいと我々の希望があり、その後はKhmer Soviet Hospで合流して、Uterine prolapseの手術を見学させていただきました。

午後はいよいよ Protocol for prevention and management of cervical pre-cancer and cancerの改訂を目的とした、Cambodian Society of Gynecology and Obstetrics – Board member & implementer team meetingの2回目を行いました。激論の末、意見の集約を見ることが出来ました。そして、二次検診の現状について、Sovanara先生(NMCHC)、Maryan先生(Khmer Soviet Hosp)、春山先生(NCGM)から解説がありました。さらに、赤羽先生(NCGM)からカンボジアにおけるHPVワクチン接種の現状報告、石岡助産師(NCGM)からカンボジアにおける健康教育の報告がありました。

今回の派遣前後にわたってサポートを賜ったNCGMの藤田先生、松本先生、春山先生、赤羽先生、上田先生、そしてSCGOのKanal理事長をはじめとするBoard memberに深く感謝申し上げます。

この派遣事業が引き続き日本産科婦人科学会の事業として継続されることでカンボジアの産婦人科医療の発展に寄与されることを望みます。

プノンペン経済特区 新規企業 2 社で健康教育を実施

プノンペン経済特区(PPSEZ)にて2018年5月7~8日の2日間に渡り、新規健康教育申し込みの日系繊維工場で健康教育を実施しました。

5月29日には同じくPPSEZにて、新規健康教育申し込み日系企業であるROHTO-MENTHOLATUM社でも健康教育が実施されました。この日の健康教育にはJICA東京国際センターからの視察団2名も見学に訪れました。



移動の車内でも綿密な打合せを行います。



5/7、8 日系繊維工場での健康教育の様子



5/29ROHTO-MENTHOLATUM社での健康教育

国立国際医療研究センター国際医療協力局
助産師 石岡 未和

今回の派遣は、2018年4月19日~5月31日までの日程で行われ、主な活動内容は、①健康教育活動に必要なインタビュー調査(検診に参加した女性工員、4日系工場の管理者、プノンペン経済特区(PPSEZ)担当者)、②プロジェクト終了までの健康教育チームの活動支援でした。

活動①については、4月29日に行われた第2回工場検診に参加した5社のうち、許可を得た1工場の24名の女性工員に対し、参加動機や子宮頸がんに関する構造化質問票を用いてインタビューを行いました。その

結果参加者の属性は健康教育受講者全体と比較して受診者の学歴が高く(高卒が最も多かった)、SCGO の健康教育を受け自分の意思で受診したこと、健康教育で伝えたかったメッセージ(検診の必要性やよびかけ)は伝わっていましたが、子宮頸がんの原因は一部誤解があることなどが明らかになりました。また、4 日系工場の管理者へのインタビューでは、SCGO の健康教育を専門家から学べる良い機会と捉え、従業員の福利厚生につながると考えていること、継続希望が強いことが分かりました。さらに、プロジェクト評価の一部としてお話しを伺った PPSEZ 担当者へのインタビューでは、本事業が入居日系工場の福利厚生向上につながる活動であると認識していることが明らかになりました。

活動②については、これまでの活動をシステム化するため、工場における健康教育実施マニュアルを作成し、このマニュアルを使いながら新規2日系工場での健康教育を実施し、使いやすい形に改定していきました。また、子宮頸がんに関する啓発ビデオ、健康教育後に持ち帰るリーフレットを作成することになり、ビデオのストーリーラインや映像会社との面談などその準備を行ないました。そして、9 月までの活動を整理し、工場での健康教育実施と健康教育教材作成(リーフレット、ビデオ)、マニュアル作成に関して、健康教育チームと工程表を作成しています。

以上より、1 月のインタビュー調査と合わせると、SCGO の健康教育は、受講者だけではなく、工場管理者と担当者、調整した PPSEZ 事務局、教育を準備実施した SCGO に様々な影響を与えた活動であることが確認されました。カンボジアは工業化を進めていく方針であり、労働衛生・労働安全整備への気運が高まっています。特に女性工場労働者は、リプロダクティブ・ヘルス、家族計画、衛生に関連するサービスに対するニーズが満たされていないとの報告もあり、本活動を継続していく意義は高いと考えます。

本派遣中には、JSOG の先生方の素晴らしい活動を拝見することができ、改めてその専門性と日本産科婦人科学会機能の偉大さを感じました。最後にこの場を借りて、派遣期間中に現地でご活躍いただき、一緒にさせていただきました皆さまに深謝いたします。

クメールソビエト病院で無料子宮頸がん一次検診を実施

2018 年 5 月 18 日、クメールソビエト病院にて子宮頸がん一次検診の無料キャンペーンを実施しました。

同病院では、2018 年 2 月 6 日に続いて 2 回目の実施となりました。1 月に国立母子保健センターで実施した検診と合わせると、病院での子宮頸がん一次検診は 3 回目になります。

この日受診した 83 名のうち HPV 陽性は 2 名でしたが、2 名とも 5 月 31 日にクメールソビエト病院を受診し京都府立医科大学の澤田医師立会いのもと二次検診を実施済みです。



(写真左)
受付でバーコード
を発行し検体容器
を渡して検診へ。



(写真右)
検診終了後、受診
者には助産師が
質疑応答を行う。



(写真左)
検診終了後、スタッ
フは採取した検体
と受付名簿を照合

～ ミニミニコラム ～

2018 年 5 月 10 日～13 日、第 70 回日本産科婦人科学会学術講演会が仙台市で開催されました。

前号のニュースレターでも紹介した通り、カンボジア産科婦人科学会からはカナル理事長、スン理事、マリアン医師の 3 名が参加し、マリアン医師のポスター発表も行われました。

(写真下)松島にて



(写真上)
マリアン医師発表のポスターパネルの
前でプロジェクト関係者と記念撮影。

カンボジア産婦人科学会“女性の健康セミナー”を開催

2018年5月26日、プノンペンホテルにて“Women Save Life”をテーマに3回目の女性の健康セミナーが開催されました。約160名が参加し、日本産科婦人科学会副理事で当プロジェクトマネージャーである大阪大学の木村教授と、カンボジア産婦人科学会長のカナル教授がプロジェクトのあゆみと成果について講演しました。

(写真下) 木村教授の講演



(写真上)
カナル学会長から感謝状の授与



JICA 東京国際センター 当プロジェクトを視察・調査

プロジェクトの終了時評価調査として、JICA 東京国際センターから2名(市民参加協力第二課の会津様および矢嶋様)が当プロジェクトの視察・調査に訪れました。カンボジア産婦人科学会理事へのインタビュー、工場健康教育見学、プロジェクト対象3病院の視察と医師へのインタビューなどを行いました。

カンボジアでの確実な実施体制と、日本からの専門家の指導、健康教育・検診から早期治療までの着実な成果、持続発展性を念頭においた活動を評価していただきました。



独立行政法人国際協力機構 東京国際センター
市民参加協力第二課 矢嶋美香子

2018年5月27日から6月2日まで、JICA 草の根協力事業である本プロジェクトの終了時評価のための情報収集調査として、カンボジアにて本プロジェクト関係各所を訪問しました。本調査にあたり日本産科婦人科学会、カンボジア産婦人科学会の皆様には、訪問・面談の調整や調査同行、各資料の準備等、大変お世話になりました。

全体を通じ、着実に役割を果たしている日本人・カンボジア人両プロジェクトメンバーの皆様の姿が印象的でした。国立病院では日本人医師から継続して技術を学ぶほか、両国の学会を拠り所とした知見共有の取り組みがされていることを実感できました。また、厚生労働省の事業等を計画的に組み合わせることで病理医師と産婦人科医が共に課題に取り組む素地が形成され、事業効果を大きくしていることも確認いたしました。プノンペン経済特区内での健康教室・検診および検診結果の連絡には、講義内容や説明方法を工夫しながら、丁寧に対応されている様子を拝見しました。プノンペン市の中心部から遠く、操業の合間のみ労働者を集めるなど時間的制約も多い工場で、工場長との信頼関係を築き、農村からの出稼ぎが多い工場労働者の状況に合わせたきめ細やかな活動の積み重ねが成果の発現と拡大につながっているのだと感じました。

今回の調査では、労働省 Occupational Safety Department も、工場女性労働者の健康教育、子宮頸がん予防に係る取り組みに前向きである点を確認いたしました。9月に予定されている本プロジェクト活動の集大成としての最終セミナーでは、カンボジア保健省や労働省、国際機関、NGO等に向けた発信が行われることで、各ステークホルダーの取り組みにも反映されていくことを願っております。

プロジェクトを取り巻く動き

- | | |
|------------------------------------|--|
| 4/19-5/31 : 石岡未和助産師カンボジア派遣 | 5/7, 8 : PPSEZ 日系工場にて健康教育 |
| 5/18 : クメールソビエト病院にて子宮頸がん無料一次検診 | 5/20-29 : 松本安代医師カンボジア派遣 |
| 5/26 : 木村正教授カンボジア派遣 | 5/26-6/1 : 藤田則子医師カンボジア派遣 |
| 5/26 : SCGO 主催“女性の健康セミナー”にて木村教授の講演 | 5/28-6/1 : JICA 東京国際センター プロジェクト終了時評価調査 |
| 5/28-31 : 澤田守男医師、西ヶ谷順子医師カンボジア派遣 | 5/29-31 : プロジェクト対象2病院にて子宮頸がん二次検診 |
| 5/29 : ROHTO-MENTHOLATUM 社 健康教育 | 5/29, 31 : 子宮頸がん検診プロトコル改定会議 |
| | 5/30 : 第2回 CPC 開催 |